

	新潟市教育委員会 平成19年10月 定例会会議録			
日 時	平成19年10月16日(火) 午後2時00分			
場 所	市役所 白山浦庁舎 2号棟 4階 白2-403会議室			
出席委員 (6名)	山 田 委員長	欠席委員		
	佐 藤 委 員			
	小 池 委 員			
	田 中 委 員			
	高 山 委 員			
	佐 藤 教育長			
会議に出席 した職員 (18名)	職・氏 名		職・氏 名	
	教 育 次 長	西 山 耕 一	生涯学習課長	玉 木 一 彦
	教 育 次 長	長 谷 川 裕 一	中央公民館長	三 保 恵 美 子
	教 育 次 長	田 中 純 夫	教職員課長	川 端 弘 実
	教 育 政 策 監	手 島 勇 平	学校支援課長	中 山 真
	事 務 局 参 事	大 科 俊 夫	地域と学校ふれあい推進課長補佐	渡 辺 幸 子
	中央図書館長	八 木 秀 夫		
	教育総務課長	斉 藤 仁	教育総務課長補佐	吉 崎 熊 勝
	学 務 課 長	遠 藤 良 二	教育総務課総務企画係長	岩 本 正 雄
	施 設 課 長	神 田 健 一	教育総務課主査	山 際 幸 太
	保健給食課長	和 田 圭 央		
その他の 出席者 (名)				

開会	時 刻	午後 2 時 0 0 分
	宣 言 者	委員長
選挙	議案番号	件 名
付議事件 (2 件)	議案番号	件 名
	議案第 1 8 号	教育長の専決処理について ・事務局の人事について
	議案第 1 9 号	職員の人事措置について
報告 (3 件)	記 号	件 名
		教職員評価検討委員会について
		中央図書館利用状況について
		第 6 0 回優良公民館表彰について
その他 (件)	記 号	件 名

第1 開会宣言

委員長 午後2時00分開会を宣言する。

第2 会議録署名委員の指名

委員長 田中，高山両委員を指名。

第3 付議事件

委員長 付議事件に入ります。付議事件は議案第18号、第19号がございますが、いずれも人事案件ですので会議終了後に審議したいと思います。よろしくお願いいたします。

第4 報告

委員長 それでは報告に入ります。教職員評価検討委員会についてですが、教職員課長お願いいたします。

教職員課長

第3回教職員評価の検討委員会の会議報告に基づいて報告をさせていただきます。

10月の10日の水曜日に実施させていただきました。出席者は10名ですが、兵庫教育大学の浅野良一先生が今回は夜行で駆けつけてくださって、一緒に会議に加わりながら、いろんな都道府県、政令市の状況を話していただき、中身が深まりました。

具体的な協議内容でございますけれども、まず自己申告シートについてそれぞれの委員がレポートを持ち寄って、それぞれのご自分の考えをまず説明をしていただきました。

浅野委員からは自分が今まで携わってきたいろいろな地域の評価の観点から、新潟市の実情とか全国の実情等についてのお話をいただいたところです。

具体的に今後新潟市で教職員評価を取り入れる上においてどんな点に注意していったほうがいいのか、どんな項目や内容を設けたほうがいいのかというような意見交換が大半でございました。

内容ですけれども、教員の行っている実践というのはなかなかすべてを自己申告シートに表すのは難しいのではないかと。

たがってその中から、例えばその年の重点的なものをピックアップして、それをシートに表していくのが現実的なのではないかということです。

それと2つ目も似通っているのですが、できるだけ形式をシンプルにして、箇条書き的にポイントを絞って書けるようにしたほうがいい。

3つ目は、内容をできるだけ簡潔にということにつながってくるんですけども、あまり必要以上に枠を細かく切らないで、自分が行うことをしっかり書けるようなシートにしたほうがいい。

名称そのものも自己申告シートというような表現よりも、それぞれの教職員が立てる目標設定をした上で取り組むので、目標設定シートとしたほうがわかりやすいのではないかというご意見が出されました。

2つ目として、評価結果の生かし方について最後のほうで少し議論をいたしました。自己申告シート、現在自己申告シートという表現をとっているわけですけども、教員が自己目標をまず設定をしてそれに向かって努力をし、その結果が評価されるということについては、大半の委員さんが賛成をしていました。優秀教員表彰という表現はともかくとして、やっぱり頑張った成果をなんらかの形で評価される仕組みが必要なのではないかということでございます。

ただ自分自身が設定した目標だけで教員を評価するのではなくて、教職員が設定した目標とか自己申告と、それから校長の評価の二本立てでトータルに評価したほうがいいのではないかということです。

それから仮に教員を表彰するにしても、なかなか取り組みの実情とか能力というのをトータル的に評価するのは難しいので、分野別に実績を評価するほうがいいのではないか。例えば学習指導とか生徒指導、それから部活動、クラブ活動等の、例えばそういう分野に分けて評価をするほうがいいのではないか。自分がその年度に重点的に取り組んだようなものを、具体的な分野から表現できるものを盛り込んだほうがいいのではないかということでした。

名前も優秀教員表彰というよりも、例えば平成何年度のMVP的な表彰であっていいのではないか。要するに表彰されたからといってそれが継続的に優秀教員であるかどうか難しいところなので、その年度の実績に即してMVP的な表彰というもの

が考えられるのではないかというご意見でした。

それからこれは総論として、新潟市の教員評価は減点主義ではなくて、教育でよく出てきます加点主義で考えていただきたいということでした。したがって校長の評価も教育委員会が行っているわけですが、加点的な考え方で行ってもらいたい、こういうような内容でございました。

この2つが大きな議論でしたけれども、次回についてはこの自己申告シート、それから評価シートの形式・内容を試案という形で提案するとともに、一般的にいう給料を除いた処遇にかかわる部分についてどのような名称にするかとか、評価結果をどのように生かしていくかということについてさらに議論を進めたいということで最後終わりました。

当初はこの委員会は5回で終る予定だったんですけども、議論が白熱しまして、とりあえず1回まず増やしてもらいましょうということで予定をしております。少し当初予定をしたよりもスケジュール的に下がるような状況になりますけれども、11人の委員さんからそれぞれ活発な論議をいただいて、充実した検討委員会が進められているところでございます。以上でございます。よろしく申し上げます。

委員長

ありがとうございました。評価検討委員会では自己申告シートについて各委員が自分ならばこうするというものを持ち寄って意見交換をやったと。そのためにその部分で大変時間をとってきたとこういうお話ですが、委員の皆さんいかがでしょうか。ただいまの説明でご質問、あるいは前もって資料をいただいておりますが、それについてのご意見や質問等ございませんでしょうか。

佐藤委員

事前にいただいた自己申告シートに対する意見等の7ページにございます、教員が職員からのいじめに遭い、成果を上げられない場合も考えられますというふうに書いてあるんですが、教員が職員からいじめというのは、職員というのは事務職員をいうんですか。どういった意味ですか。

教職員課長

いじめという表現が適切かどうか微妙なんですけれども、それぞれ仕事をしている中で頑張っている人でもなかなか力を発揮できない人もいるわけですが、なかなか力を発揮できない人に対して厳しい指摘とか指導が伴う状況の中で、それが時には

自分がいじめられているんじゃないかと感じるような状況です。

佐藤委員 同僚からということなんですか。

教職員課長 そうです。

佐藤委員 わかりました。

教職員課長 自分の持てる持ち味とか特性とか力を環境の中で思うように発揮しきれない職場環境も時にはある、こういう意味であります。

佐藤委員 それをマネジメントするのが教頭であり校長、主任といわれる人たちだと思うんですが、そのあたりのフォロー体制というのは、今現在、系統立てて出来上がっているんでしょうか。

教職員課長 どうしても学校というのは鍋ぶた組織で、なべのふたで校長、教頭はいるんですけども、あとは全部教諭、職員ですので、なかなか思うように縦系列で意思統一ができない状況がないとはいえません。

できるだけ学校によっては学年主任、それから生徒指導主任を含めて学校運営委員会、企画委員会というような名称で、できるだけ学校が基本的に動くように心がけてはいるんですけども、十分なリーダーシップ、指導性が発揮できないときにはそれが思うように生かせないという現状もあるということです。

佐藤委員 それは基本的には現在の抱える課題、問題としての課題というふうに捉えてよろしいんでしょうか。

教職員課長 ただ実際には今年度、今私は午前中人事異動説明会で、今回も教職員評価にかかるいろんな話をしてきたんですけども、学校を回ってかなり学校が変わって改善されてきたなと思うのは、学校の状況に合わせて学校組織を基本的にかなり変えてきています。

例えばいくつかの学校の重点をプロジェクト制にして、そこに職員を集中して学校の課題解決にあたるとか、そういう形で

機能的に学校長もリーダーシップを発揮して、学校運営そのものはかなり改善されてきていると認識しております。

高山委員

ここにも書いてありますけれども、自己申告で設定した目標だけで教員を評価するのはよくない。自己申告と校長評価の二本立てでトータルに評価すべきである。これはその通りだと思います。ぜひこういう方向で進めていただきたいなと思っております。

それから加点主義というのはいいと思います。やっぱり減点主義というよりも、いいところを見つけてあげるという基本的なスタンスというのには正解だろうと思っています。

それから評価の仕方といいますか、どう生かすかという点で、表彰制度を全国的に見ますと、新潟と秋田ともう1県、3県がやってない、あとの県は全部表彰制度を持っている。

それから政令市では浜松だけが未定で、あと全部なんらかの形ですでに取り組んでいるし、取り組み始めようとしているということでありますから、この評価制度はなるべく予定通りスタートしていただきたいなと思っています。

そのときに今新潟市教育委員会で行っているマイスターですが、結局マイスターという称号を先生に与える。これも一種の職員表彰のようなものなんですけれども、その辺とのかかわりについて何かお話は出ましたでしょうか。

教職員課長

具体的にはマイスターとのかかわりの部分までは話は出ていません。ただ中山委員長さんとは実際にマイスター養成塾をやっていて、今年度末マイスターが認定されるので、そこと表彰をなんらかの形で将来的にリンクさせていきたいという話はしているという実情でございます。

高山委員

委員の皆さんの中からも出てきたんですが、評価の対象として人間力あるいは組織マネジメント力、こういったものの評価というのは大変難しいというふうな話が出てきておりますけれども、その辺のやり取りはいかがでしたか。

教職員課長

なかなか人の能力をどの部分をどう判断していくかというのは非常に難しいという議論になっています。そうするとその年度である程度表れてきた実績やその人の取り組み状況で、外側の見えている部分で評価せざるを得ないだろうという方向で考

えは進んでいます。

したがって人間力とか組織マネジメント力も、具体的なその年度の学級運営ですとか生徒指導場面ですとか、それから自分が担当する公務分掌の職務であるとか、そういう職務を見ながら人間力とか組織マネジメント力を判断していくのが一番いいのではないかな。こういう意見が主流でございます。

小池委員

私は会議速報の報告の中の優秀教員表彰というより、各年度のMVP的な表彰ができるとうい。その年その年で頑張った先生ということで、マイスターのように1回与えたらマイスターがずっと続くということではなくて、そういう形のティーチャーオブザイヤーといったほうがいいのかMVPといったほうがいいのかわかりませんが、そういう形で何人かの先生を表彰するというのが、スポットライトを浴びてもらうというのほうがいいのではないかなと思いましたが、これに賛成です。

それから減点主義でなく加点主義で考えたいというのは当然私たちがずっと言ってきたことですので。表彰されるような先生をたくさん出した校長先生が評価されるような形なれば校長先生もどんどん加点主義で評価していくという方向になると思います。

優秀教員を表彰することと同時に、組織として、個人がいい仕事をするということではなくて、組織体として向上することが必要だと思います。

自分の授業は一生懸命やるんだけど、隣のクラスの授業についてまであんまり口を出さないというようなところがある。それが全体としてうまく回っていくようにということを考えると、優秀教員と同時に学校、何校かを表彰するというような形で、優秀な先生方の多く出た学校をスクールオブザイヤーでもいいんですけども、そういう形で表彰するような形にこれが発展できたらいいのではないかなというふうに考えました。

教職員課長

ありがとうございました。ティーチャーオブザイヤー、これは実際に会議の中でもその表現が出ていました。

小池委員

その年に活躍した先生みたいなものですね。

委員長

この委員の話の中、いじめというような言葉で、職員のいじ

めみたいな言葉で出ておりましたし、それから対立、こういうことをやると個がそれぞれ、教員それぞれが対立関係にあると。それを乗り越えていかないとそのよさが発揮されないんじゃないかというふうなことを書いておられた方も、中学校の先生でしたか、おられましたか、確かにそうだろうと。誰かをほめれば誰かがひがむというんでしょうか、悪い言葉で言えば。

課長さんのほうから最初から、前回は鍋ぶた式だというふうな話があって、大変うまく機能しているときは鍋ぶたでも構わないわけですが、鍋ぶたの下にいる人たちというのはお互いおれがおれがというふうな意識で頑張ってもらわないといけないわけですが、対立もしやすいと。

そのことがこの評価制度が導入された場合に学校現場はどうなるんだろうと危惧されているわけですが、ぜひその辺について委員の皆さんと話し合っていて、評価についてどういう方向でいったらいいのか検討していただきたいなと思っております。

報告いただいた中で、ぜひそうしてほしいと思うことは、先般校長先生方と話をした機会がありました。

県が試行している評価制度で一番困っているのは、校長と教職員の話し合いの時間が十分にとれない。特にちょっと問題だなという教員と話をするときは 30 分なんかじゃとてもだめだと。やっぱり 1 時間なり 2 回なり 3 回なり話し合わないとこちらの意思是伝わらない。意思が伝わらなければ目標なんて設定できないんだと。それを年間 3 回やるとなると、今の学校現場では非常に難しいという話をされておりました。

この評価カードを見てもこれを作る時間が相当かかり、学校の日常活動を圧迫しないかなということを心配します。

そういう意味でこの一番最初に申告カードを現実的なものにする、非常に書きやすくするという工夫ですね。県のものもちょっと書きづらいみたいな感じがしますので、書きやすい形に直していただきたいなと思います。

それから評価結果の生かし方、資料のほうの評価結果の活用方法、非常に総合的にまとめており、マイスター養成塾もその中で加えて教職員評価というのがどういうことに活用されるのか、あるいは個人のほうに帰っていくのか書いてありますが、特に処遇等への反映、それについては全国ほとんど始めているわけですから、全国の様子をよく調べてそれに伴ってそういうことをやるよさは十分に予想されるわけですが、弊害です。先ほど申し上げたことと絡むわけですが、弊害をきちんと確かめ

て、そして検討していただきたい。

こんなふうに一覧を見ますと新潟県は遅きに失したみたいなきっかけがありますが、あわててやって教職員の中にあつれきを起こすようではせつかくのいい内容が無駄になると、そんなふうな感じを持っております。ぜひまた検討委員の皆さんと相談していただきたいと思っております。

ありがとうございました。それでは続きまして、報告の2、中央図書館利用状況について、よろしく願います。

中央図書館長

私のほうから中央図書館の利用状況について、当日配布ということでお配りしたペーパーで説明させていただきます。

10月1日の式典にはご参加いただいて大変ありがとうございました。おとといまでの2週間の間で入館者数は平均して3,179人という数字でございます。初日は正午から開館して3,200人ということで非常に多くの方からお入りいただきました。入館のピークとしては6、7、8の連休と13、14の土日ということでございます。

大まかなデータですが、登録者数については予想以上においていただいて、新規に貸し出しカードをお作りしております。

この中で私ども非常に心配しておりました駐車場、それから駐輪場の件なんです、駐車場について100台という数字なんです、大体概ね間に合っております。ただ、3連休の8日の月曜日だけ雨が降りまして、1日雨だったせいだと思いますが、1台あたりの車の滞在時間というのが非常に長く、それで8日だけ周辺が少し渋滞しましたが、それ以外の日は非常にスムーズでした。

駐輪場について、約200台ございますけれども、3連休と13、14の土日については100台から150台オーバーしておるような状態でした。非常に自転車に乗ってくる近隣の方、それから高校生が多くなりまして、これが常態化してしまうのかなという懸念がございます。

図書館の内部でございますけれども、1階の正面入ったところのくらしのコーナーと呼んでおりますところ、それからこどもとしゃかん、マンガコーナー、視聴覚資料のあたりが非常に混み合って、くらしのコーナー、こどもとしゃかんあたりは本が少しがらがらの状態でございます。

学習室が190席ありますけれども、大体9割程度埋まり始めたかなということで、少し社会人が追い出されるような形にな

っております。住み分けを考える必要があるかなと思っております。高校生で満杯になるような状態にそろそろなりつつあります。

ちょっと残念なのは、2階に設けました調査相談カウンター、レファレンスカウンターと呼んでおりますが、ここの利用と、その脇にあるオンラインデータベースのコーナーが利用が少し少ないということで、これが今後のPRの課題かなと思っております。

18年度の沼垂図書館と比べますと、概ね4.5倍程度の利用、入館かなと感じております。概略は以上でございます。よろしくお願いたします。

委員長

ありがとうございました。いかがでしょうか。中央図書館が10月1日から開館して大変盛況のようですが、ご質問ございませんか。

当初見込みというか予測というか、入館者数はどうですか。

中央図書館長

当初見込みとしては少し過大かなと思いつつ、平均して1日2,000人というふうに見ておりました。土日、休日については3,000人を超えるかなということでは見ておりましたが、少しオープン時期ということもあって多いんだらうと思っておりますが、その辺に落ち着くのかなとも思っております。

委員長

平日は2,000人、土日は3,000人ぐらいを目途にしているというようなお話ですが、開館当初ですのでそういった目標はクリアしているわけです。

よろしいでしょうか。ご苦労様ですが今後ともひとつ利用者が増えるようによろしくお願いたします。

続いて、第60回優良公民館表彰について、お願いたします。

中央公民館長

その前にほんぼーと周辺ウォーキングマップというのを付けてございますが、これにつきましては中央図書館が開館するのにあたりまして、その地域にあります東地区公民館のぬったり地域楽の活動グループと東地区公民館と一緒にしまして、せっかく中央図書館がオープンしたから地域としても協力して何かを作ろうという提案がありまして、この周辺マップを作成いたしました。中央図書館の開館に合わせて配布いたしておりますのでご覧いただければありがたいと思っております。

です。

委員長

いかがでしょうか。ご質問ございませんか。

高山委員

申請はどのようなふうにするんですか。

中央公民館長

昨年度の実績によりまして手を挙げる公民館ということで、めばしいところに声をかけまして申請書を出させます。それをまず県の段階で検討して、それから国のほうへあげるようにしております。

高山委員

新潟市の場合、今回何館ぐらい申請をされましたか。

中央公民館長

2館いたしまして、2館とも入りました。

高山委員

石山地区公民館の1つの実績として、安全マップ作りとおっしゃいましたね。公民館が作ったということですね。

中央公民館長

そうです。公民館と公民館で活動している住民の方たちと、それから地域の子どもたちで作ったということでございます。

委員長

先ほど優秀教員の表彰の中で学校を表彰したらいいというようなお話も出てきたわけですが、これは国の計画、活動になっているわけですが、公民館を単位に表彰するというのは学校を表彰するようなのと似たところがあるかと思うんですね。また、社会教育と学校教育の交流みたいなものを、あまり関係ないのかもしれませんが、お互いに情報を知らせあっていただきたいと思います。

高山委員

今公民館の数は全国第3位というのは変わりませんか。

中央公民館長

最新のデータがないのでわかりませんが、新潟県の場合は変わっていないと思うんですが、あとで調べて報告いたします。公民館は全国的には減りつつあります。

高山委員

大変公民館活動が盛んだといわれる新潟で、新潟市から2つ出た。大変めでたいことだと思います。

委員長 大変ありがとうございました。それでは以上で報告を終わります。

第5 次回日程

委員長 次回の日程について説明を求める。

教育総務課長 11月定例会は、11月29日(木)午後2時から、12月定例会は12月20日(木)午後2時からでお願いしたい。

全委員 全員異議なく了承する。

第6 閉会宣言

委員長 午後2時35分、閉会を宣言する。

(非公開部分) (議案第18号 教育長の専決処理について及び議案第19号 職員の人事措置について審議し、可決する。)

以上、会議のてん末を承認し、署名する。

署名委員

署名委員